愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	人間健康特講Ⅲ		
担当者(Instructors)	石渡 靖之	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

「チームマネジメントⅠ」チームマネジメントの重要な要素である『人』をフォーカスし、「人がチームに関わってチームをどのように作っていくか」ということを中心に学ぶ授業である。この授業の中で、スポーツ指導者に必要な基礎的知識及び理論を修得する。また、科学的及び理論的な視点で選手（メンバー）指導や「チームづくりを行う能力や態度を養い、将来のスポーツ指導者として現場で必要となる力を身につける。さらにスポーツ指導に限らず、人と関わる社会生活の様々な場面で役立つ授業となることを目指す。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式を中心とする。テーマに応じて、他の学生の意見を確認しながら自己の考えを整理し、結論を導き出すような授業を展開する。また、毎回の授業に関するプリントを投稿し、次回の授業までに提出を課す。また、その他に４回の課題レポートの提出を期限を設けて課す。授業資料等に関する質問は授業時、授業プリント及び課題レポート等については、メール、chat等により個別に受け、学生自らの考えを整理し、まとめた上で課題を提出してもらう。採点後フィードバックする。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション 指導者の言葉	本授業の目的及び到達目標の確認を行う。 指導者の発する言葉についての考察	□
第2回	スポーツの集団と組織	チーム・クラブの捉え方、組織（チーム）の定義 指導者（リーダー）に必要な資質・能力について	□
第3回	チームの基礎作りのための活動について	チームを機能させるために必要なチーム内の人間関係を円滑にするための指導者（リーダー）の取るべき行動について	□
第4回	レベルアップに必要な諸要素	「目標設定」について チームや選手がレベルアップするために指導者が行うべきことについて	□
第5回	チーム力向上のためのチームマネジメント（１）	チーム作りを進める上でのポイントについて チーム作りを行う上で重要となるナンバー２の存在について	□
第6回	チーム力向上のためのチームマネジメント（２）	チーム内のコミュニケーション活性化のための方策 チームの生産性向上のために（目標達成のためのチームマネジメント）	□
第7回	トレーニングのマネジメント（１）	競技力向上のためのトレーニングの構築について	□
第8回	トレーニングのマネジメント（２）	情報のマネジメントについて	□
第9回	トレーニングのマネジメント（３）	トレーニング効果を上げるためのタイムマネジメントについて 効果的なトレーニングを行うための指導者の留意点について	□
第10回	チームマネジメントの実際（１）	チームの「モチベーション」を維持・向上させるための指導者の取り組みについて	□
第11回	チームマネジメントの実際（２）	他チームとの差別化を図るための取り組みについて	□
第12回	ヒトのマネジメント	指導者（リーダー）が行うヒトのマネジメントとは チーム内外のヒトに関するマネジメントについて	□
第13回	大会期のマネジメント	大会前のチームマネジメントのポイント 大会期間中のチームマネジメントのポイント 勝利の方程式ともいえる好循環の流れをチームにつくるための指導者の活動について	□
第14回	ジュニアユース年代の指導について	中学生年代の選手やチームを指導する上での指導者の留意点について	□

第15回	授業のまとめ	授業内容の総括 チームを任される指導者の心構え 授業を総括して望ましい指導者の姿についての考察	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習については、次回予告で示す内容について調べ学習を行ってもらう。（毎回１～2時間程度）。 事後学習としては毎回の授業内容を確認する授業プリントの提出を課す。（１回分2時間程度）（計１５回分）原則として、授業終了後１週間以内の提出を提出期限とする。期限を過ぎて提出された授業プリントも事前に示した最終提出期限内であれば評価は行うが、期限内に提出されたプリントとは評価で若干差をつける。詳細は、第１回授業の資料内で示す。 また、１５回の授業で計４回の課題レポートの提出を課す。この課題レポートは、数回分の授業内容を網羅した課題となるので、提出期限は２週間を予定している。課題レポートの作成及び提出期限についても、第１回授業内の資料で示す。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

各授業資料や課題に関する質問は授業時またはメール、chatで受け付ける。 提出された毎回の授業プリント及び課題レポートについても提出後順次採点し、コメント等を交えフィードバックする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019人間健康DP1	選手の心身の健康、スポーツにおける競技力向上、選手の心理等に関する専門的知識及び実践的能力を身につけ、より良いチームづくりに向けて問題解決方策を探求できる。
主体性	◆ 2019人間健康DP3	チーム構成員の多様な価値観を認め、スポーツ指導に関する幅広い知識とスキルを基に自発的に行動し、人と協働して社会や地域に貢献できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の授業時に自分の考えや意見を記入する授業メモ（１５回）、授業後にteamsに投稿する授業プリント（１５回）、学習内容に応じて授業３～４回おきに提出を課す課題レポート（４回）で評価する。提出期限内に提出すること。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	原田宗彦・小笠原悦子（編著）：「スポーツマネジメント」：大修館書店	
2	小倉広（著）：「あたりまえだけどなかなか作れないチームのルール」：明日香出版社	
3	勝田隆（著）：「知的コーチングのすすめ」：大修館書店	
4	大儀見浩介（著）：「勝つ人のメンタル」：日本経済新聞社	
5	日本コーチング学会（編著）：「コーチング学への招待」：大修館書店	